

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

24. タネツケバナ（アブラナ科タネツケバナ属）

Cardamine flexuosa With.

2015年3月

田んぼや水路、湿った道ばたに多い越年草です。茎は下部から分枝し、高さ10～30cm、細かい毛があり、多くの葉を付けます。茎下部は暗紫色を帯びます。葉は羽状複葉で多少毛があり、頂小葉は少し大きく、7～10個の小葉があります。側小葉は狭長楕円形～倒卵形です。果実時には根生葉は枯れます。花は3～5月に開き、花弁の長さは3～4mmです。果実は無毛で長さ2cmほど、軸につく角度が比較的大きく広がります。種子は長さ1mmほどで翼はありません。これらの特徴は類似外来種との違いです。分布は日本全土で、北半球の温帯域に広く生育し、姫路市においても田んぼを中心に至るところに生育しています。名前の由来はイネの種もみを水に漬けて、苗代をつくる準備をする頃に花が咲くことによります。生で食するとピリッとした辛味がある美味な食用野草です。同じような生育地にヨーロッパから帰化したミチタネツケバナ（*Cardamine hirsuta* L.）とコタネツケバナ（*Cardamine parviflora* L.）があります。在来種であるタネツケバナに似た種類で、タネツケバナの生育を脅かすような現象が見られます。ミチタネツケバナは茎が無毛で、茎につく葉は少ないのが特徴です。根生葉は果実時でも残ること、果実が直立して花を囲むようになることがタネツケバナと大きく異なります。コタネツケバナは別名ヒメタネツケバナといい、小型種で、茎は無毛で少数の葉を付けます。葉はほぼ無毛で、ロゼット状にはならず、小葉は楕円形で縁に粗い鋸歯があります。果実は約1.5cmで他2種より短く、種子は長さ8mmほどで縁に翼があります。姫路市の東端にある的形町の田んぼで、コタネツケバナが一面繁茂する様子が観察されました。



タネツケバナ



コタネツケバナ